

これは、職員定数の問題等いろいろございますので、果たして、そこまで配置が可能かどうかということにつきましては、今後、多方面にわたって検討する必要があるのではないかなというふうには思います。

○議長（初村 久藏君） 11番、小島徳重君。

○議員（11番 小島 徳重君） ぜひ、最初に言いましたように、子育てに金を投資するということは、すごく効果的だということは、これは国段階でも、政府も言っていますしね、対馬市でもぜひ、そのような施策を打ち出していきたいということをお願いして終わります。

以上です。

○議長（初村 久藏君） これで、小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を2時15分からいたします。

午後1時56分休憩

午後2時13分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） 皆さん、こんにちは。新政会の春田新一です。

質問に入る前に、一言、申し上げます。

新たな年を迎え、比田勝市長の2期目の任期も間もなく残り1年となります。昨年の夏には3年ぶりとなる国境マラソンIN対馬や、対馬厳原港まつりが開催されるなど、市内で多くのイベントが感染防止対策を講じながらも盛大に開催をされました。しかしながら、本市の人口減少には歯止めがかからず、島内の各産業分野では担い手不足が深刻化し、いかに人口減少を抑制して担い手を確保していくかが、本市の大きな課題であろうというふうに思います。

人口減少や少子高齢化が進む中、持続可能な地域社会を築くため、今まで以上の行政運営に残りの任期も期待をいたします。

また、2月21日には長崎県知事に就任をされました大石知事が来島され、22日と23日の2日間島内の各事業所、公共施設の視察をされました。また、23日には比田勝市長も同行され、上対馬の国際ターミナルや民間の事業所の視察をされたと聞いております。

大石知事の見解では、対馬の峰町佐賀は妻のふるさとでもあり、対馬のために頑張りますと声高らかに話をされておりました。今まで以上に、この県政とパイプを取られることを望みます。よろしくお願いいたします。

それでは、通告をしておりました3項目について質問をいたします。

1項目、誰ひとり取り残さない優しいまちづくりについて。地域老人クラブの意義と行政の取組についてお伺いをいたします。

老人クラブは、各地域を基盤として、高齢者が自主的に集まって活動する組織だというふうに考えます。福祉の向上を活動の目的として、各地域で立ち上げられているというふうに思うが、行政としてどのような支援をしてあるのか、お伺いをいたします。

次に2点目ですが、高齢者が健康で自立した生活が送れる事業の立ち上げや、継続していくための支援策、また、その支援についての課題等をお伺いいたします。

次、2項目です。持続可能な地域社会を築くための計画の中で、人材の確保と人材育成の各部署の取組についてお伺いいたします。

地域資源を活用した新分野への事業進出、人材育成等への支援をすることで、市内の産業振興や雇用の維持・確保につながり、また新しい分野への進出や移住・定住につなげていかなければならないというふうに思いますが、各部署の取組についてお伺いをいたします。

次に3項目です。台風時における避難港の浜久須湾、大增湾について。

両港とも気候変動による大雨で、河川からの土砂流出により湾内が浅くなっています。全体的なしゅんせつはできないか。

また浜久須湾については、二級河川である玖須川が整備をされていますが、河川の延長も長く、土砂流出が途絶えることなく沈殿をしております。大增湾についても同様のことが言えます。しゅんせつはできないかお伺いをいたします。

以上、3項目の質問、答弁をお願いいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 春田議員の質問にお答えいたします。

初めに、地域老人クラブの意義と行政の取組についてでございますけども、本市の老人クラブの現状は、令和4年度各町の単位老人クラブ数が92クラブ、会員数は2,753人で、平成30年の5年前と比べ、クラブ数で9減、会員数で542人の減となっています。

このような傾向は本市だけでなく、全国の老人クラブも同様であり、就労年齢の高齢化に加え、生活環境の変化から、老後の人間関係もそれまでの友人、知人とのつながりを重視するなど、地域社会への帰属意識が以前より低いことが原因ではないかと考えられています。

老人クラブは、老人福祉法第13条に位置づけられ、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織であり、多くの会員とリーダーの手で継承され、レクリエーションやスポーツ等のクラブ活動を通じて仲間をつくり、孤立することなく、地域で支え合う基盤づくりに努めていただいております。

少子高齢化が急速に進む中、高齢者が互いに支え合い、介護予防や相互の生活支援を展開して

いく必要があるという観点から、その活動及び役割が今後ますます期待されているところです。

また、社会奉仕活動に積極的に参加・参画し、高齢者の持つ活力を生かした活動を展開しており、豊かな地域づくりに不可欠な存在と認識しております。

行政の取組としましては、対馬市社会福祉協議会と連携し、活動などに係る情報提供や助言などを行っており、老人クラブへの補助金の交付を通じて、老人クラブ活動等の、より一層の活性化を図り、サロングループや介護予防自主グループ等と連携の輪を広げ、高齢者の生きがいや健康づくりを推進することにより、明るい長寿社会の実現と保健・福祉の向上を図っております。

次に、高齢者の健康寿命の延伸と取組と課題についてでございますが、高齢になっても住み慣れた地域で尊厳を持って、生き生きと自分らしい生活を送るためには、要支援・要介護の状態になることを遅らせ、重度化を防ぐ取組が必要でございます。

加齢に伴う筋力の低下や、低栄養によって心身の機能が低下し、弱った状態をフレイルと申しますが、早い段階でフレイルに気づき、進行を防ぎ、あるいは回復できるよう、健康寿命の延伸並びに高齢者の自立支援及び重症化予防に向け、高齢者が介護予防の取組を進めることが極めて重要でございます。

本市では、高齢者が介護予防の必要性を理解し、自らが主体的に介護予防活動に取り組むことができる介護予防自主グループを市内各地域において育成・支援することを目的に、運営費等の助成と保健師等専門職による支援を実施しております。

グループの活動でございますが、軽い体操やスクエアステップという運動などを実施しており、定期的に保健師等を派遣し、介護予防教室を開催しております。

助成を開始した平成28年度は26グループでございましたが、令和4年度は55グループと倍増し、延べ参加人数は7,500人程度に達する見込みでございます。市内の広範囲に介護予防自主活動グループが順調に広がっているところでございます。

グループ数は増加したものの、各地区では人口減少と高齢化が進んでおります。今後も参加者数が減少しないように、各地域の高齢者に対する参加奨励と、グループのリーダーとなる人材育成を積極的に推進してまいります。

また、各グループに積極的に保健師等の専門職を派遣し、活動の支援と介護予防教室や健康教育等を実施していくことで、活動への満足度を向上させ、同時に、参加する高齢者の健康づくりと介護予防を実施してまいります。

次に、人材確保と人材育成の各部署の取組についてでございますが、初めに農林水産業における人材確保でございます。

農林水産業におきましても担い手対策は大きな課題となっております。

まず、農業におきましては、新たに農業を始める農家に対して、市が認定新規就農者に認定し、

農業次世代人材投資事業を活用して3年間生活費等の支援を行い、その後は認定農業者に認定し、農業の技術や経営指導など人材育成を支援しています。

林業におきましては、林業の星スキルアップ研修事業として、木材業・製材業登録者が業務上必要な資格及び免許取得に必要な経費の補助を行っております。

また、水産業においては、漁業就業実践研修事業等により、3つの漁業研修コースにおいて研修費、漁具経費、指導料等を支援することで、漁業の担い手確保に努めているところでございます。

次に、雇用拡充及び創業分野における人材確保及び育成施策についてでございますが、現在3事業に取り組んでおります。

まず人材育成施策では、創業等支援事業のメニューの1つとして、市外における資格取得、研修受講等に必要な旅費・受講料等の経費に対し、10万円を上限に対象経費の3分の2以内の支援を行っており、主に建設事業者のドローン技術に係る免許取得等での活用がっております。

次に人材確保分野では、本市との包括連携協定に伴う人材派遣として、総務省所管の地域活性化起業人制度を活用し、シダックス株式会社より人材を受入れ、民間のノウハウや知見を生かすことで、地域の活性化をはじめ、職員の意識づけにも寄与しているところでございます。

また、特定地域づくり事業として、令和3年度末に設立いたしました対馬づくり事業共同組合において、島外からの移住者を中心に派遣事業に取り組んでおり、令和4年9月30日より2名の方を雇用し、市内事業者へ派遣しております。

最後に、介護職員の人材確保についてでございますが、関係機関や団体等と連携を図り、職場環境、介護職員のスキルアップ研修会や小中高生への介護講座や職場体験等を通して、介護の仕事の魅力を伝える活動、市内外でのお仕事説明会へ参加し、人材確保のPR活動に取り組んでいるところでございます。

また、介護初任者研修を実施し、未経験者や高校生の受講生の確保に取り組み、毎年市内の介護事業者に就職し、成果を上げているところです。

人口減少が進む本市におきまして、人材確保の問題は非常に難しい問題ではございますが、様々なツールや機会を用いながら、人材確保及び育成に取り組んでまいります。

次に、台風時における避難港の浜久須湾、大増湾のしゅんせつについてでございますが、近年、全国各地で記録的な大雨等が観測されておりますが、本市においても例外ではなく、長雨や大雨時の斜面崩壊や落石、また有害鳥獣の地山の掘り起こしなどにより山の荒廃が進み、降雨のたびに山からの土砂が河川や漁港・港湾など、特に河口付近に土砂が堆積する状況が全島的に発生しております。そのような状況から、漁港・港湾の施設機能低下が危惧されているところです。

対馬市では、水域施設である泊地や航路等について、土砂堆積状況の調査を行っており、機能

の健全性を4段階に分け、日常の漁業活動に支障の大きいものから優先的に機能保全計画を作成し、順次、維持管理に努めているところでございます。

浜久須漁港につきましては、平成29年度に岸壁前泊地の深浅測量を実施した結果、一部計画水深より浅い箇所は確認されましたが、施設の機能に大きな影響はなかったことから、現時点では泊地しゅんせつを考えておりません。

しかしながら、地元漁船はもとより、荒天時には他港からの避難船が接岸していることから、定期的な簡易調査により観察を継続してまいります。

議員御指摘の玖須川の河口部は、広範囲にわたり土砂が堆積しているのは確認しておりますけれども、泊地ではないため、漁港の補助事業では現時点で実施困難な状況であります。

また、大増湾は大増川の河口部が広範囲にわたり土砂が堆積しております。県管理の港湾でありますので、港湾区域内の土砂除去については、堆積土砂の状況を調査し、緊急性が高いと判断される箇所については対応を検討していくとでございます。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） どうもありがとうございました。

1点目から順を追って整理をしていきたいと思います。

私も、そろそろ老人クラブに入らなければいけない年代になっております。それでこの中身を聞いたわけですけど、なかなか難しいところがあるかというふうに思って今、聞いておりました。2,753人で、だんだん減少傾向にあるということですが、その中で、この1点目と2点目がかなりダブっておりますので、そちらのほうで、理事者側のほうでうまい具合に答弁をしていただければというふうに思います。

この老人クラブに入っていない方と入っている方と、各地域にはおられるというふうに思っております。健康でばりばりいろいろなことができる人は、高齢者になってまだ入っていない方もいらっしゃるというふうに思っております。そういうところで、やはり今から先はこの人材確保というのが難しくなり、また人材育成も対馬の中では難しいような状況にあります。

それで、この老人クラブについては、老人同士がお互いに助け合いをもってやっていくようにしていけばどうかというふうに私は思うんですが、少し提案をさせていただきます。少しした、ちょこっとした仕事が、1時間か2時間の仕事はできますので、座ってされる人、また元気で立ってされる人、そのような事業、作業を探して、お互いに高齢者同士がよき仲間となって働いて、長寿命化に資するというような気持ちが私はあられると思うんですね、どこの老人クラブも。だから、そういうところに本当にどこまで支援が行き届くのか、そこも一つの行政の悩みどころであろうというふうに思いますが、やはりこのリーダー、地域のリーダー、老人クラブのリーダー

さんがおられれば、そこら辺もうまく行政や社協との連絡調整もいくんじゃないかなというふう  
に思うんですよね。だから、そこら辺に今後、私の人材育成の問題は下のほう、2番目ですけど、  
そこにやはり、そういうところも今後いろいろ協議をされながら、やっていったらどうかなとい  
うふうに私は思いますが、部長でも結構ですが、どうですか。分かりましたか。

○議長（初村 久藏君） 福祉保健部長、國分幸和君。

○福祉保険部長（國分 幸和君） 老人クラブのリーダーの育成についてということでございま  
すけども、老人クラブの活動事業におきまして、若手リーダーとか女性リーダーの研修会等を計画  
しております。それでリーダー育成に取り組んでおりますけども、こういった問題につきまして  
は老人クラブだけではなく、どの団体においても難しい問題ではないかと認識しております。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） なかなか難しい問題ですけど、やっぱりこれは地域に入ってい  
かないと、そのクラブの中に入っていけないと分からないんですよね。なかなか行政としても、  
いつのときにか質問があってありました。現場に行って困った人を助けるということはしてます  
かというような質問もあってありましたが、なかなかそこは業務多忙で行かれないという事情も  
私たちもよく分かりますが、やはり地域においては支援が必要であるにもかかわらず、届いてい  
ない人がいると思うんですよね。だから、そういう人にどういう情報やら、どういう支援をして  
いったらいいのか、これが一番大事じゃないかなと思うんですよね。そうすることによって、い  
ろいろなところにつながっていきます。

今シルバーセンターの話も少し答弁がありましたので、私はシルバーセンターは質問はしてい  
ませんが、少し触れますけど、やはりシルバーセンターの方たちと一緒に、老人クラブの方た  
ちと仲間づくりをしていって、お互いにみんなで仕事を探していく、そしてみんなで助け合う、  
こういうことにどういう支援を行政として、また社協としてしていくのか、また社協との連携を  
どのように行政側はとっているのか、そこを少しお聞かせください。

○議長（初村 久藏君） 答弁できますか。

10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） すみません、私の質問が分かりづらいような質問になっており  
ますけど、行政側としてもそこはきちんと把握されて、この老人クラブを立ち上げる意義と行政  
の取組についてということですから、そこはちゃんと調べておかなければいけないんじゃない  
かなと思いますが、私も分からないなりに質問をしていますので、何とも言えませんが、や  
はりそこは社協に委託をしている部分について、どのようにしているのかということを知ってい  
るんですから、そこは答えなければいけないんですが、そこはそことして、今後また私もいろ  
いろ調べて、質問なり、直接お聞きしたいと思います。

それから、これから2点目ですけど、これについて、1点目と2点目と同じようなところに入ってくるので、答弁はお互いに譲り合ってやっていただきたいと思います。

対馬市では、買物支援、通いの場活性化事業というのが予算化されております。それから生活支援コーディネーター配置事業、これも今年度から7年度までの事業ということで計画をされております。

その中で、生活コーディネーターにとっては、年をとっても住み慣れた地域で自分らしい生活が続けられる、年をとって家の中でじっとしておくんじゃなくて、外に出ていかれる自分らしい生活が続けられるため、医療、介護のほかに、地域における助け合いが必要不可欠でありますということです。やはり先ほど言いましたように、お互いに隣同士が助け合ってやっていくというのが、私は先ほど質問したことなんですが、なかなか分かりづらいんですけど、このリーダーをつくるための人材発掘や、6名のコーディネーターを配置し、福祉事業などを活用しながら、高齢者が生活しやすい地域づくりを目指しますということです。この6名のコーディネーター配置というのはどういうふうにされるのか、お尋ねをいたします。

私の考え方では、社協にお任せじゃないかなというふうに捉えるんですが、そこら辺を少し説明ください。

○議長（初村 久蔵君） 健康づくり推進部長、桐谷和孝君。

○健康づくり推進部長（桐谷 和孝君） お答えいたします。

生活支援コーディネーター事業につきましては、社協さんのほうで実施しておりまして、6名、ほぼ各町ごとに配置をしているような状況でございます。

以上でございます。

○議長（初村 久蔵君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） 各町に1人ずつ6名配置をしますというのは、もう書いてあるから分かるんですけど、どこにどういうふうにしてやっていかれるのか、そしてまた、どのようにして生活しやすい地域をつくっていかうとお考えで計画をされているのかということをお尋ねしておりますので、難しいと思いますが、今、私が言わんとすることは、これは6つある社協に委託をして、そこをお願いをしていますよというのであればそれで結構なんですけど、そういうふうにして、この福祉というのは非常に難しいんですが、やはり先ほど言いました地域のリーダーがあって、それからリーダーの下で動いてやっていくということが一番ベターなんですけど、やはりいろいろな障害を持った方、いろいろ、昨日までは動けたけど今日は動けんという方もいらっしゃるでしょう。そういう人に、どうしたらその人の支援に行き届くのかということをしてるんで、健康づくりのほうも6名のコーディネーターをつくってやっていますということで、これは健康寿命である体操とか、そういうものだろうというふうに思いますが、この事業の中身を少し

お知らせください。

○議長（初村 久藏君） 健康づくり推進部長、桐谷和孝君。

○健康づくり推進部長（桐谷 和孝君） お答えします。

地域において生活支援等のサービスの提供体制の構築に向けて、地域支援ニーズの把握と、地域に不足しているサービスの創出や、サービスの担い手の養成などの業務を行っております。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） よく分かりませんが、地域においては支援が必要であるにもかかわらず、そういう人に対して情報や支援を届けるために、行政や支援機関が積極的に対象者のいるところに出向いて働きかけることはどうですかということですが、これは言葉でアウトリーチというんですけど、そういうようなことを取り組みはしてあるのかということを知っているんですけど、なかなか取組が出てきませんので、私のほうもこれでその部分はもう終わりたいと思います。ありがとうございました。

それでは、持続可能な地域社会を築くための2点目に入ります。

人材の確保と人材育成の各部署の取組について、先ほど市長のほうから答弁をいただきました。

今回、やはりこの人材育成というのは難しい、対馬の中でですね。陸続きであれば、いろいろな人材が交流できるんでしょうけど、なかなか難しい問題にあらうというふうに思いますが、各部署において、いろいろな支援がされておると思います。先ほど市長のほうから漁業者の支援についても答弁がございましたけど、私は農林業について少し支援の仕方、また補助に対する行い方というのを少しお尋ねいたします。

今、林業、前回の折にも質問いたしましたが、自伐型林業ということで前回、質問をさせていただきました。少し分かりづらいところがありましたけど、なかなか対馬の中で、やはり自分の山、そして自分の先祖が今まで守ってきた山を守らなければいけないというような、強い意思の方もいらっしゃるというふうに思っております。

そういう中で、何名かこの自伐型で、自分の山を1日に2時間か3時間入ってやろうという人が見受けられます。その人とも話をゆっくりしましたが、なかなか専門職ではないので、難しいというところもありました。

しかし、市としては、やはりこれに安全対策講習会、あるいはこの小さい機械に対する補助、そういうものをもう少し取り組んでいただいて、そして一生懸命自分の山を守る、また森を守るためにやっていくんだという勢いを見せて移住者を増やす、これに私はつながってくるんじゃないかなと思って質問をしているんですけど、やはりこの森林が89%を占める対馬の中ですから、やはりここにも重きを置いて対馬を守らなければいけないというふうに思います。

だから、部長でも結構ですけど、林業者の講習会、名目を忘れましたが、講習会で3万



5,000円払って行ってきましたというような方もいらっしゃいました。それで、また小さい機械で、私たちは大型機械じゃなくて小さい機械でやっていきますので、その小さい機械に対する補助をしていただけないでしょうかと、そうすることによって、いろいろと若い人、あるいは都会にいる人にいろいろ連絡をしながら、調整をしながら、帰ってきてもらったり、また移住を増やしていきたいという考えを持っていますということをお聞きしましたので、そこを部長にお尋ねしますが、部長どうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えいたします。

安全対策に対する講習への補助ができないかといった御質問だったと思います。

うちのほうでは、対馬の星林業スキルアップ事業という補助事業がございまして、これは事業体のみならず、個人にも補助をするようにはしております。しかしながら、これは長崎県のほうに製材業の登録条例というのがございまして、それも義務化されております。そういう県の条例に基づいて登録をされた方を対象に、そういう講習への補助を2分の1、10万円が限度ではございますが、そういった補助はありますので、詳しくは県の林業課のほうにお問い合わせいただければというふうに思います。

それから、林業に小さい機械でも補助できないかという御質問でございます。

機械の種類によりましては、汎用性がある機械がございまして、例えばバックホーであるとかトラック、こういったことは農業、林業、水産業、全体的に見回しましても、現制度では補助の対象にないということで、汎用性のあるものについては、ちょっと厳しいだろうと思います。

ただ、林業に特化するようなチェーンソーであるとか林内運搬車、丸ノコであるとか、そういったものにつきましては、金額は小そうはございますが、交付金事業がございまして、そちらのほうを御利用いただければというふうに思います。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） ありがとうございます。

今、部長の答弁はよく分かりましたが、やはり長崎県の条例に基づいて申請をしなければいけないとか、補助対象外であるとかというような、非常に個人的に難しい話になってくるんじゃないかなと思うんですね。我々であれば、分かっているからそれはいいでしょうけど、個人でそれをそうしていくということは、非常に厳しいんじゃないかなと思うんです。それで、やはり人材育成、あるいは先ほど言いました支援をしていくためには、やはり現場の人に合った方法でやっていかないと、なかなか人口も増えないし、対馬の林業もなかなか山林もきれいにならないんじゃないかなと思うんですけど、やはりいろいろ取り決めはあると思いまして、誰でもどこでもと

いうわけにはいきませんが、やはりその事業主というか山主ですね、山主、先祖からもらった山主が荒らさないように、きれいにしていこうという大きな気持ちを持ってやってあるんですよ。チェーンソー、それはチェーンソーに補助はもらって木は切りますけど、何で運ぶんですか、手で運ぶんですか。そうじゃないでしょうね。やはりトラック、あるいはバックホーというのが要るんですよ。だから、そこに先ほど言いましたが、少しでの補助ができるように行政側で取り組んでもらう、そこを私は話しているわけです。いや、ありますよ、それは申し込めばできますよ、そうじゃなくてですね、やはりお互いに対馬に生まれたみんなじゃないですか。力を合わせてやっていきましょうよ。その軽トラを、バックホーのフォークを20万円で買える、4万円ぐらいの補助は何とか出ますよ、そういうような柔軟性を持ったやり方で、対馬なりのやり方でもいいじゃないですか、そういうことをやっていくようにしましょうよ。そうしないとですね、なかなか大きな共同体、あるいは森林組合等には大型機械の補助は出るんですよ。しかし、小さく自分のところでやろうという人には補助が出ない。それはやはりもう少し柔らかくしていったって、柔軟を持って、そしてみんなが対馬の中のこの森林を守っていかなければいけないんですから、そういうふうやっていくように、私は部長にお願いをするんですが、部長どうでしょうか。

○議長（初村 久蔵君） 農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩 慶有君） お答えいたします。

春田議員の御意見はよく分かるところでございます。しかしながら、国、県のほうでそういったメニューでもつくってもらえれば、何とかうちもそれに上乗せした助成の仕方ができるかと思うんですが、何分にも林業をしたいという方がどのくらいおられるか分かりませんが、そういった方たちに補助をするというのは、分母がちょっと見えないようなこともありまして、ちょっとこの場ではお答えはできません。

先祖から持っておられる山があられる方はですね、森林組合なんかと共同で森林経営計画というのを立てていただいて、その中で素材生産量が上がっていったら、現行制度では高性能林業機械であるとか、そういうトラックの購入の補助にはなりますので、始めたばかりの方たちには、今の段階ではこの場ではできるということはちょっと言い切りません。

以上でございます。

○議長（初村 久蔵君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） 部長、すみませんね、もう涙が出ようでしょう、部長。ごめんなさい。

そういうふう、自分の山を守っていこうという人もおられるんですから、そこは肝に銘じて、何かあったときには支援をしてやっていただきたいというふうに思います。よろしくお願いします。

それから、特定地域づくり事業協同組合についてですね、昨年度から立ち上げられてやっております。この事業の特別予算のほうでも事業の成果は報告はありましたが、これから、今、上対馬に1か所、2名の雇用だということでありましたが、私も質問はさせていただきましたが、この対馬の広い中で1か所だけじゃなくして、上、中、下はどうでしょうかという話をした経緯があると思いますが、そこら辺の考え方は部長が説明をして、市長の考え方があられば、またお願いします。

○議長（初村 久藏君） しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀 敏治君） 対馬づくり事業協同組合につきましては、昨年3月にやっと立ち上げることができました。当初立ち上げるときの想定といたしましては、春田議員おっしゃるように、上、中、下3地区でそれぞれできないかなということを想定はしておりました。募集した結果、17事業者の方が組合員となってくださったんですけども、その中で地区を分けるか、上、下にするか、3地区できるか、3地区できれば、それぞれを任う事務局、また会長さん、発起人さんもそれぞれ要るところで、いろいろ協議を重ねた結果、2つも厳しいだろうということで、結果、1組合ということになりましたけども、今後につきましては、先ほど申しましたように理想としては上、中、下3組合が理想とは考えておりますので、急に3ということにはならないと思いますけれども、1組合から次はまずは2組合できるような形で努力していきたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 対馬づくり事業協同組合の今後ということで、私の意見はというような質問だったと思います。

この対馬づくり事業協同組合につきましては、やはり先ほども部長が答弁いたしましたように、大変すばらしい企画だというように私も思っております。可能であれば、上、中、下にそれぞれそういった機能を構築したかったんですけども、なかなかそこにはやっぱり組合員がいなくてはならないし、また、それなりの雇用の場が必要だというようなことで、現在は1組合でございまして、雇用が2名ということで、ただ、今後この出資者を、17業者をもう少し増やしなから、そしてまた、雇用する方々を可能な限り増やしていきたいというふうに思っております。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） よく分かりました。

今、上対馬のほうで取り組んでやっております。やはりこの人材育成、雇用の確保の場ということでこれを立ち上げていかれるのであれば、上対馬だけじゃなくして、やはり厳原、美津島、豊玉というような感じでもいいんじゃないかなというふうに思います。それぞれその町に合ったいろいろな職業があります。その職業に合ったようなことをしないと、協同組合というのは私は

始まらないというふうに思っております。商業だけで、ただただ雇用が2名あったというのも、食堂の中に2名雇用されたというような話は聞いておりますが、やはりそうじゃなくして、もう少しスケールを大きく持って、3つで1つでも、事業者は17業者ということですから、結構おられますよね。だから、そこを分配して、同じ上対馬町だけでも17業者だったら上対馬だけでいいでしょうけど、ほかにおられるなら、その方々をリーダーとして、またその事業者を増やしてもらうというような形も取っていかれて、どうしてもこの予算に影響してくるんですが、予算も少し多く取られてやっていかれたほうがいいというふうに思います。

あと、農業、林業、水産業といったような大きな事業ができるところもいっぱいありますし、また真珠とかそういうのも結構できると思いますので、雇用の場、そしてまた新しい人材の育成、そして、そうすることで移住者も増えてくるというふうに思います。いろいろ若い人たちは、本土とのやり取りもネット等でやっておられますので、やはり対馬はいいなと思われるようなやり方をつくっていかねばなりません。これは私たち議会も行政も一緒だろうというふうに思いますが、やはりそこを一緒に力を合わせてやっていくべきではないかなというふうに思いますので、またいろいろ勉強したいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、最後の3項目めに入ります。

台風時における避難港についてですけど、市長、地元でありますので御存じであろうというふうに思います。タブレットに流して、写真がありますけど、やはりこの1番目について、漁船が少し見えてますよね、漁船が。この漁船がシャフトにつかえてできないぐらいのときが、干潮はバックもUターンもできないというような状況にもなっておるということでここで取り上げたんですけど、左奥手を見ると、やはり鳴滝川、鳴滝から流れてくる土砂だろうというふうに私は感じております。そういうことで、この部分がしゅんせつできれば、しゅんせつをしていただきたいなということと、あと3枚目の丸囲みをしているところが玖須川と上対馬総合運動公園から出てくる分の河川であります。ここら辺も写真ではちょっと見づらいですけど、結構たまっておりますので、ここら辺も取っていただければというふうに思っておりますが、市長どうでしょうか。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 私も地元の出身として、できる限りこの事業には対応したいとは考えてはおりますけども、要は、今個々に示されたエリアが、やはり公共的な泊地、そして航路、そういうところではないということであれば、なかなかその理由づけが難しいものというふうに思っておりますし、この海のしゅんせつにつきましては、しゅんせつ船を回航してくるだけでも結構な経費がかかります。

そういうことで、また、公共事業で補助事業等を活用してここをしゅんせつをするときに、何らかの形でこういった、特に緊急的な箇所をしゅんせつすることができればというふうに思って

おります。

以上であります。

○議長（初村 久藏君） 10番、春田新一君。

○議員（10番 春田 新一君） 時間がなくなりましたが、大増湾もそういう同様に同じですね、考え方は一緒でいいですね。

大増湾についてはですね、写真もありますように、川の部分も結構河川もたまっていますので、そこら辺も今後よろしく願いをしておきます。

それと、1点ですね、このしゅんせつ、どこの漁港も結構事業をなされていると思いますが、やはりこの土砂を捨て土にするんじゃないくて、やはりどこかに利用、転用するというようなところも、今後、考えながらやっていかなければいけないというふうに思いますので、そこら辺も含んで、よろしく願いをしておきます。

終わります。

○議長（初村 久藏君） これで、春田新一君の質問は終わりました。

○議長（初村 久藏君） 暫時休憩します。再開を3時15分からとします。

午後3時03分休憩

午後3時14分再開

○議長（初村 久藏君） 再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。14番、小宮教義君。

○議員（14番 小宮 教義君） 14番議員の小宮教義でございます。今日は私が最後、大体4人で終わるんですけども、今日は5番目ということで、非常に皆さん眠たくなっておるでしょうけども、立花局長、何かいいですか。眠たくないですか。松井部長、大丈夫ですかね。二宮部長も大丈夫ですか。よくこっちを見ててくださいよ。

今回もですね、前回ちょっと私、一般質問しませんでしたけども、今回はですね、また市民の声が届いております。今回もまた市長さんということで、市長もなかなか人気があってうれいんじゃないかなと思うんですけども、うれしゅうございますか。うれしいということでございますので、じゃあ市民の声を届けさせていただきたいと思います。

市長さんの施政方針演説をケーブルテレビで見せていただきましたと。立派な話でありましたが、私の方針も聞いてくださいと。昨年はNHKの「ブラタモリ」で2週間にわたり対馬市の放送があってました。元寇の襲来した小茂田と日本の最強の山城、国の特別史跡金田城など、タモリさんがたくさん対馬市をPRしてくれました。タモリさん、本当にありがとうございました。